

瀬名波ガーの話

屋良 朝助 (1907・M40) 字瀬名波 (02 : 00)

昔^{うんかし}よー、七月^{ななちきはー}干てい、うりから七月^{ななちきあみふ}雨降たん
でい。うれー、今^{くんどう}度や丁^{ちよーる}度よ、満^{まん}七^{なな}十二^{じゅうに}年、やー。
今^{くんどう}度、七^{しち}十三^{じゅうさん}しみそーちやる人^{ちゆ}ぬ生^{うん}まりため
年^{とし}、うぬ^{ひがい}被害^{あみ}でいーしえー。

とーうぬ^{ばー}場^{たちどろし}ぬやー、辰^{ひがい}年^{あみ}に被害^{あみ}されー、雨^{あみ}たぼり
ーさしえー、うりから上^{ぬぶ}てい来^{つつ}ぬ、川^{かーびら}平^{いー}ぬ上^{いー}でいち。
川^{かーびら}平^{いー}でいぬ屋^{やーどろい}取^あぬ在^{うんま}んよー、其^{うんま}処^{うんま}んかい。うれーや
ー、瀬^{しなは}名^{しなは}波^{ひら}ガ^{いー}ーぬカ^{いー}ーぬ坂^なぬ上^なやぐと^なうやー、うぬ名^な
あ^ち付^{かーびら}ち川^{かーびら}平^{かーびら}やし^{かーびら}がやー。

うぬ^{ばー}場^{うんま}に其^あ処^あんかい、あぬーモ^あーぬ在^あんよー。うぬ
モ^{むらじゅうらん}ーとーてい村^{あみ}中^{あまぐ}出^{あまぐ}じていぬ雨^{あみ}たぼり、雨^{あみ}乞^{あまぐ}い、
し、やー。あんし、山^{やま}かい行^いちやーん、渡^{とうきし}慶^{じーま}次^{じーま}、儀^{ちゆ}間^{やま}
人^{ちゆ}ぬ山^いかい行^いちやーやし^{ちゆー}がやー、来^{ちゆー}るう^{ちゆー}っさんか
い^{むるみじ}全部^{あみ}水^{あみ}え^{あみ}くんち^{あみ}ゃきてい、雨^{あみ}たぼり^{あみ}さ^{あみ}つぬ、うぬカ
ーぬ名^{めいさん}所^{せなは}でいーしえー瀬^{せなは}名^{せなは}波^{せなは}ガ^{せなは}ー。

やし^{みじ}がやー、うん^{いろ}にーに水^{くま}え、井^{ねー}戸^{ねー}お此^{ねー}処^{ねー}ねー無^{ねー}
ら^{ていなは}ん、瀬^{みじ}名^く波^{あさ}ガ^{くら}ーから水^{くら}え^{くら}汲^{くら}りやー。朝^{あさ}ん暗^{くら}さいに並^{くら}
り汲^{くら}り、やー。又^{また}、夕^ゆさんでいん^{なら}また並^{くら}り汲^{くら}りやー。
あ^{あざ}んさーに、くぬ^{あざ}字^{あざ}び^{あざ}か^{あざ}ーじ^{あざ}え^{あざ}ーあ^{あざ}らん、渡^{とうきし}慶^{とうきし}次^{とうきし}ん
儀^{じーま}間^{むる}全^{みじ}部^くあ^{ゆうめい}り^{ゆうめい}ち^{ゆうめい}ー水^{ゆうめい}え^{ゆうめい}汲^{ゆうめい}ら^{ゆうめい}しが^{ゆうめい}よー。有^{ゆうめい}名^{ゆうめい}な^{ゆうめい}う
ぬ^{せなは}カ^{せなは}ーでいーしえー瀬^{せなは}名^{せなは}波^{せなは}ガ^{せなは}ー。

うり^{ていー}とう、な^{ていー}ーち^{せなは}え^{せなは}ー、瀬^{うた}名^あ波^あガ^あーに歌^{うた}ぬ^あ有^あし
が^{しなは}やー。瀬^{しなは}名^{しなは}波^{しなは}ガ^{しなは}ーでいぬ^{いわ}カ^わーや^{いわ}岩^{いわ}から湧^{いわ}ち^{いわ}ゆ^{いわ}ん、岩^{いわ}
から水^{みじ}え^わ湧^{しなは}ち^{みじ}ゆ^{いわ}ぐと^{いわ}うやー、『瀬^{しなは}名^{しなは}波^{しなは}ガ^{しなは}ぬ^{みじ}水^{いわ}や^{いわ}岩^{いわ}から
湧^わち^{しなは}ゆ^{しなは}る瀬^{しなは}名^{しなは}波^{しなは}二^{くとうぼくふあ}才^{いし}達^わが言^{いし}葉^わ固^わさ』石^{いし}から湧^わ
ち^{くとうぼくふあ}ゆ^{くふあ}る瀬^{くとうぼくふあ}名^{くとうぼくふあ}波^{くふあ}二^{くとうぼくふあ}才^{くふあ}達^{くふあ}が言^{くふあ}葉^{くふあ}固^{くふあ}さ』石^{いし}から湧^わ
ち^{くとうぼくふあ}ゆ^{くふあ}ぐと^{くふあ}う、言^{くとうぼくふあ}葉^{くふあ}あ^{くふあ}固^{くふあ}さん。やし^{くとうぼくふあ}が、言^{くとうぼくふあ}葉^{くふあ}あ^{くふあ}固^{くふあ}さ
し^{まこと}が、心^{まこと}は誠^{まこと}、うん。

【共通語訳】

昔ね、七か月干上がって、それから七か月雨が降っ
たんだって。それは、今年でちょうど満七十二年だよ
ね。今年七十三歳のお祝いをした方が生まれた年なん
だよ、その被害があったのは。

その辰年の早魃時に、雨乞いをした場所は、瀬名波
ガーから上ってきた所だった。そこには川平という屋
取があるよ。そこはね、瀬名波ガー（湧泉）の坂の上
なので川平と名がついたわけだがね。

また、そこには野原があつてね。その野原に字民が
集まって雨乞いをしたんだ。そして、山へ行く者、そ
こを通る渡慶次や儀間の人たちにも、皆に瀬名波ガー
から汲んできた水をかけて、雨乞いをした湧泉といえ
ば瀬名波ガーのことだよ。

その頃は、字には井戸がなく、瀬名波ガーから水を
汲んで使っていたんだよ。朝もまだ明けない暗いうち
に並んで汲んでね、また夕方も並んで汲んでいたん
だ。それは、瀬名波だけじゃなく、渡慶次や儀間の人
たちもそこに来て水を汲んだわけさ。瀬名波ガーとい
うのは有名だよ。

それと、もうひとつ。『瀬名波ガーの水は岩から湧
きでている 瀬名波の若者たちは言葉が荒い』という
瀬名波ガーの歌があるんだがね。岩から湧いている瀬
名波ガーの水を飲んでいるから、瀬名波の若者たちの
言葉は荒いが、心根は優しいんだよ。